



續羣書一覽

六

加  
765  
6



門 4 2  
第  
卷

法帖之部  
地理之部

續羣書一覽  
已

法帖之部

一 證古金石集

三冊

葛西彰子言輯

此篇は我朝古代の金石銘を模写し伊藤長胤木

村世甫屋代弘賢狩谷掖研栗原信克西田直養市

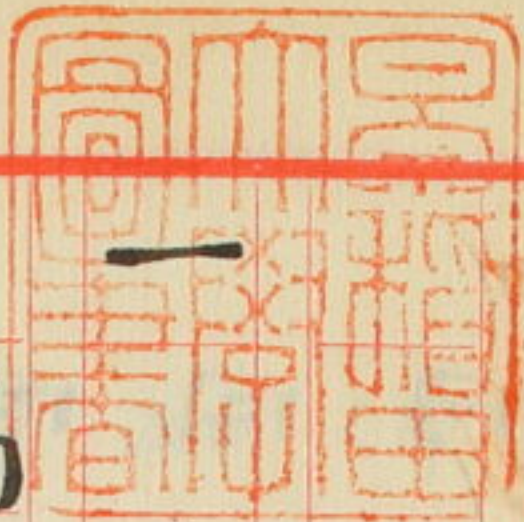
河世寧穂井田忠友藤原貞幹尾崎雅嘉岡崎雅嘉

岡崎信好山川正直等の考案を引證す

上巻

大和国法隆寺中金銅觀世音造像記

同 同 寺金銅觀世音造像記



Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '法帖之部' and '證古金石集'.

同 同 寺金銅如意輪觀世音造像記

同 同 寺屋堂茶師仙无背記

同 同 寺金堂紙迦仙无背記

同 同 寺二天像記同釣斗

同 同 寺庫中処及立像紙迦仙造像記

同 同 西京茶師寺塔擦銘

同 同 城上郡栗原寺塔露盤記

同 同 奈良東大寺銅收勅書

同 同 寺正倉院杖幡鎮鐸記并銀壺記

(第壹號)

伊豆國益山寺金剛盤

山城國白川天満宮鉾記

大和國東大寺正倉院銅鉢記

山城國法全剛院鐘銘

大和國興福寺中勸善院鐘銘

越前國織田村社鐘銘

山城國高雄神護寺鐘銘

同 同 深草道澄寺鐘銘

卷中

同 玉宇治橋斷碑

河内國春日村形浦山碑

下野國那須郡造碑

上野國多胡郡宣命碑

近江國栗本郡月輪村碑

大和國於山碑并菜師寺仁足跡碑

上野國金井沢下贊御碑并山名村碑

陸奥國宮城郡多賀城碑

大和國宮智川石壁所刻碑

卷下

河内國古市村敏王墓誌

山城國小野所出小野毛人墓誌

大和國葛下郡道場山所出威名大村墓誌

同 宇陀郡八滝村所出文祢磨墓誌

備中國下道郡西三成村下道國勝墓誌

因幡國法美郡宇陸山所出伊福吉郡德足墓誌

大和國宇智郡大沢村所出楊貴氏墓誌

河内國石川郡所出高屋枚人墓誌

攝津國島上郡光徳所出石川年足墓誌

同 國春日村所出記吉繼墓誌

以上

一心經

一帖

此書彙書子曰神龜三年歲次丙寅十二月上旬散  
伍寮廿初任下布羅長磨書體隅寺心經比同筆子  
しし署名と水ふくは弘法大師といふく美書  
あり文改甲申初秋刻成

一 東大寺献物帳

一帖

此編は天平勝宝八歳六月廿一日大納言仲磨左  
京大夫永年山背守福信正五位下角芝悦五位上  
产主等の彙書あり当寺へ納めらるゝ処之目錄  
也書中元正天皇は太上天皇聖武天皇は後太上

(第壹號)

天皇と記す書體唐風をわし珠更見事あり其跋

子曰

右件皆是

先帝既弄之珍内司供擬之物追感時昔觸目崩摧  
謹以奉献 盧舍那仏伏願用此善因奉資冥助早  
遊十聖普濟三途然後鳴鑿花藏と宮住躋涅槃之  
岸

明治十三年十二月

博多鎮

藏收

一 傳教大師戒牒

一帖

延暦四年四月六日之戒牒子して卷端には延暦

古書保存會

寺印あり書中は残らず僧綱之印を押捺す且又  
書体見事也跋子曰

開祖傳教大師戒牒舊藏在奥山大原寺如未藏  
中顧其永寂距今十年而近其德愈著其法愈盛  
雖不可誣而若求其典刑于當時則難矣因刻而

傳世焉乎高山仰止景行々止觀者思之

安永四年乙未八月朔日 僧正良胤 謹書

一 長講法華經先公發願文 二帖

傳教大師筆

此書卷末子曰弘仁三季歲次壬辰四月五日求法

(第壹號)

釈最澄記とあるを摹刻する處なり階行之書體

殊に卓絶せり

一 長講金光明經會式 一帖

傳教大師筆

此書又巻後子曰弘仁四年六月日願主最澄記と

あり摹刻同手書體前文と同一なり

一 長講仁王般若經會式 一帖

傳教大師筆

此書又巻後子曰弘仁四年六月七日願主最澄記

とあり乙書體前書と同一也

一心經

一帖

桓武天皇宸筆

此書世傳疑子しし江州長明寺旧藏板也階書の

法は晋唐ふりと雖も疑ひなしとせず

一 将来目錄

二帖

弘法大師筆

此書は大同元年十月沙門空海自唐帰朝将来す

る処に新譯經部百四十二部梵字真言讚等四十

二部論疏世二部阿闍梨に付物百四十九卷仙像

法具及舍利等の目錄也

(第壹號)

為剛心恩広徳與三室抄道馬大師即筆謹開印

版吳

正文四年十一月廿日

高野山愚光沙門慶賢

一 新清帖

一帖

弘法大師筆

此編は新清帖乱代雖樂死朝衰夕誰衆衆之と

經文あり一行七字筆勢勁健飄揚非常之絶筆也

此と宝珠矣しし東寺処傳大馬天神經と同筆

凡世間に此書を弘法大師と稱すれと醍醐山用

基聖宝理源大師之筆也天保五年の夏豊山有光

古書保存會



之跋吉野山櫻本坊快存摹刻

一心經 一帖

一 法藏 天皇宸翰

此心經者弘仁九年天皇天下疲病大流乃下民困  
苦天皇深愍之般若心經自寫於宮中有供養忽

然平癒不示來此金字經法藏大覺寺子處傳勅  
卦也每正月限三日令人巡拜此之什物也大覺

寺藏

一 大傳法帖 一帖

秦柳文明集

天明七年後秋自序此帖子載る処は

傳教大師入唐探同受戒謀東大寺卦伍仟

戶勅書和州奈保山碑和州場貴代墓銘

河内國形津山碑常川高屋連墓銘奥州紀

音鑑墓銘 以上

一 伴都内親王願文 一卷

橘逸勢筆

此願文既子浪花帖子刻すれと粗子し見る子  
是らす近く印刷局子於し石版子せら成真子迫

流此亦り本書は当夏華族宮門從五位より宮内

省一納められたりと云々

兼文按するは橋逸勢さはやナリと訓し来れ

流を薩戒記抄にはトしナリと可讀由見へた

リ

一 草書心經

一帖

弘法大師筆

此書俗に氣心經と稱し氣の足跡に似たり此模

本卷菱湖之跋あり吉信天翁之刻する処あり

兼文曰此原本ハ紙質清潔ならず反古裏子等

し書體又判然せざる疑しき經也東寺高野山

(第壹號)

ふと子は採らす三条西大教正之話二百五六十

年以前の偽書ありと何か傳へのある甲子や

一 楷書心經

一帖

此帖は六種の心經を集め一帖とす其目は

吉備真備公 傳教大師 弘法大師 小野道

凡朝臣菅神 平相國清盛公 以上一種の畧

名のあふなし

一 古今和歌集

二帖

純 貫之筆

此集は原本として光方ハ毛利家の処藏光方

行書集存會

十八は此藏と雖不知同筆あり從名の體桂意成  
秘藏の美彖集とは相たかひた百よふ子覺申

一 馬名合 一 帖

源 順朝將軍

此編は左右十箇冊首の和奇を去ふせり題は眞

名子しし記假名を晴書子す書尾美子後世の及

ふ此子ありす

一 博古帖 一 帖

此帖は大同元年七月十五日太政官使東大寺三

綱 蝶と育とし負觀局奉承平安和天祿元天元

(第壹號)

正曆等は蝶狀合十一迎を摹し以て古制度の考

証に刻すと云、明和元年甲申九月平安平平孫

父上梓

一 集古浪華帖 五冊

竹窓森川世芳著

文政二年己卯秋九月孫奇彌後序

此編に載る處之筆蹟人名に左の録す

卷一 嵯峨天皇 光定戒牒 笑澄上人御製

橘 逸勢 伊都内親王 願文

傳教大師 求法目錄 内唐鄭審則跋字

卷二 弘法大師 七祖因中大字 消息三通

小野道風 消息十三通 臨王右軍

卷三 菅原道實公 長谷寺緣起

藤原佐理卿 贈帝禪師詩 思令帖

女車消息

卷四 世尊寺行成卿 詩四首 消息一通

朗詠六首

後京極良経公 消息一通

同 輪筆實公 同

源 頼朝卿 同 二通

(第壹號)

久我兼定朝臣 詠懷紙一首

卷五 魚名氏 十一通

文政二年己卯十二月撰勤上人

浪花森川世黄家藏

一 集古浪華帖 二冊

竹窓森川世黄著

此篇は促名書の升を集む小野道風紀母之後京

極良経公俊成卿忠家卿兼定卿行成卿を初め數

名子して無名氏也又少な<sup>カ</sup>才<sup>カ</sup>或は自公の鑑

識を以し名を極めたり也見由上様年月前と同

一 臨終行像 一帖

法然上人筆

此原書は旧駿河國沼津乘運寺に傳來す此亦

9廿終り子

建久元年十月日法北筆と記す又跋に曰

今茲御臨終記者法北上人直筆成り實正也

叡山之象徒下駿州善光寺佛堂上人被為寄進

者也仍如件

平時寛永三年十一月三日 雄峯靈巖 花押

(第壹號)

一 源義経朝臣敬白文 一卷

此書は元暦二年六月七日八幡宮室前へ鑑甲と

奉納し乙終言を悲訴し神光を以て悪徒誅罰を

欲す依処之願書也

一 世尊寺法帖 十卷

此編ハ世尊寺家代之筆蹟を刻す依処にし乙

其人名

行成卿 行經卿 伊房卿 定實朝臣 定信

朝臣 伊行朝臣 伊經朝臣 行能卿 經朝

卿 經平卿 行房朝臣 行平卿

以上十二名在り

一 次鶴法帖

六卷

此篇は三蹟三筆之外書畫無比之名筆を集めて刻す所なり

藤原敏行 菅原文時 大和守兼行 中納言

定頼 紀時文 藤原長季 世尊寺伊房

法性寺志道公 小野菴村 弘經朝臣 文正

朝臣 以上十一名在り

一 阿及羅帖

五冊

宗剏僧都輯

卷一 多羅茶梵文

阿比羅者平江州末近寺藏

同 迦茶者平和州法隆寺藏

多羅樹茶梵書 河州高貴寺藏

同 山城嵯峨清凉寺藏

貝茶梵文 和州招提寺藏

害世畏三藏書 江州三井寺唐院藏

不空三藏書 同

敏卷但羅三藏書 同 芦浦觀音寺藏

順院阿闍梨書 同 比叡山安樂院藏

惠果阿闍梨書

唐人書二種

山城八尾高山寺藏

世名氏書

伊勢回末寺藏

解脫上人筆

江戶成草英氏藏

古鈔

探州四天王寺明許院藏

卷二

傳教大師書

和州妙樂院藏

弘法大師書四種

河内山崎寺藏

同

美和寺藏

慈覺大師書二種

江州大津寺藏

理源大師書二種

和州談山竹覺院藏

(第壹號)

觀賢僧正書

山城雄徳山中坊藏

淳祐内供書

同高山寺藏

惠心僧都書

江州末迎寺藏

慈鎮和尚書

山城栗田尊勝院藏

真性僧正書

山城大原寺藏

卷三

世名氏書

同高山寺藏

成順僧正書

同

成綜僧正書

山城柵尾十無蓋院藏

寬綬上人書

京福井某氏藏

貝葉施文

和州唐招提寺藏

明惠上人書

山城馬山寺藏

空達上人書

同

仁真上人書

同

喜海上人書

同

神日祥所書

同

慈眼大師書

江戶東叡山涼泉院藏

無名氏書

同

大和國天田寺鐘銘

大和信貴山藏

本澄所藏三銘銘

大和信貴山藏

卷四

禪仁法印書

山城高山寺藏

卷五

法全和尚書

江州三井寺唐院藏

傳教大師書

同 三井寺法明院藏

真養書

同 坂本末迎寺藏

弘法大師書

慈覺大師書

江州比叡山實藏坊藏

淨空上人書

山城馬山寺藏

覺鑒上人書

以上天保十年刻於芳州山田世尊光社

兼文明治十四年八月江州坂本末迎寺及三井



寺北谷法明律院子到本編卷五傳教大師之  
書并子與養の書と記するを熟視す亦子同一  
筆子しし紺紙金字法明院と白紙墨朱迎寺  
との相違而已子し共子理源大師の筆亦亦  
を証す寺傳子は此寺の誤りハ常也見亦人勿  
迷云々

一 楠正行主從起請文

一卷

此卷は正行朝臣主從討死を期し連署して奏せ  
らるる也凡連署の輩は野田四郎紀大九出門和  
田云秀金牙新兵衛國地良田楠時監和田和泉守

同新三郎高家神宮寺正師矢尾新介正春忠美太

郎正遠等也又其起請文ハ

凡捨身殺恩者人倫之法也為朝亡命者良臣之節

也此故我等先主故判臣正成輕一命於戰印之時

致遺言於子孫曰可扶亡朝之危使君奉即九五之

位云々依之今正行且欲頸為臣之道且成爲子之

術奉義顯於中華之西南類身於一毛比義於金石

即從何不善之哉然則一家一族并即從等殺人感

志以為臣之義与正行共蒙共亡子今神前怪約期

契於將來若所申是右為則違喪之士也起請文仍

如件

貞和四年十二月日 楠帶乃在平門尉正少花押

四條大納言隆實卿奉

貞和四年ハ北朝之偽年号にして南朝ハ則正平

三年也何故子楠公の甲ひら水さりし不審々

々

一 西手鑑

一冊

此編上は聖武天皇聖德太子先明<sup>皇</sup>后より下は

元悦了佐子到日迄大臣皇族公卿殿上人武将勇

士高僧達奇師女流等七百五十余人の真蹟を集

裂類百三十六種延冊六百十六枚を臨写撲刻し

て手鑑となす通者ニ称况子慶安四年辛卯仲秋

一 開成

眺望集

前後二帖

浦井有国輯

文政七年八月古筆了意序述筆之跋

此帖ハ浦井有国年比心を尽し集めし処之各自

筆の短冊撲写して刻す後宇多院後醍醐天皇光

明院三条寧量公一条兼良公花山院師賢公大納

言為忠世中院通秀公三条実任公足利義持義政

義尚義規平信長豊臣秀吉秀頼兼好北阿蘇想一  
休宗紙尚拍能阿弥相阿弥等一而七十奈負和奇  
及詩連奇能勺等各本紙し例日小傳を附す文政  
八年乙酉正月梓行之

一新六奇仙帖

一帖

浦井右国輯

文政九年五月古筆了意序

此帖は後京極慈円西川俊成定家隆の真蹟を  
模写して刻す浦井氏の処藏亦此の複製也  
一千と勢のたぬし  
一帖

水野士伍守忠誠著

嘉永三年十二月十九日菅原夏蔭序平春野之跋

此編は新宮侯所藏する処を模写して刻す其不

二は

源俊頼真蹟 漢古鏡 定家真跡 下総国鈴

宮古鈴 北阿書 後京極良経書 西行上人

慈鎮和尚真蹟 後伏見院 後鳥羽院 後醍

醐院宸翰 藤原為家 純貫之 源家長 二

全真量公真蹟 楠正成御前五物 古銅器三

耳壺 文館詞林残欠 伊勢国飯高郡泊村古

鈴 古銅器温壺 土佐刑部大浦光信画

以上北二種嘉永四年五月刻成

一 古刻書跋 一冊

正參近藤守直榊寄原信元 合輯

文政二年潤四月柳菴自序

此書天平宝字八年刻相輪陀羅尼ヲ古刻之敢

古とし一挙成は世論也然し同時刻之根本陀羅

尼心印陀羅尼の二種を成せしは山日小そや

兼文曰近く支那人揚守攷古逸叢書を著し此

三陀羅尼七故を集め刻せしは至り辱せしと

いふべし

次子貝原氏以選擇集為刻本始榊選擇集ハ建久

九年子刻成元久二年山門諸焼印板此間僅九年

也其後建曆辛未冬平基親序以刊行とあるを予

駁之為陀羅尼を挙げたり

兼文曰宝字より建久に到成間弘仁仁王経

天安の成唯識論を始め安和永延保元仁安等

の数板陸續翻刻す其証は古梓一覽を著し収

む依り及み贅せず

此書天一原收選擇集より貞應之大般若嘉禎の

阿弥陀经普門品金剛壽命陀羅尼負和四念の景  
德傳燈錄迄漸々十四種之跋を影写して彫刻す  
一 觀古雜帖

穗井田志友輯

天保十二年九月廿五日自序

此編は南都東大寺法隆寺班鳩尼寺之什物十件

ヲ収む

玉葺野生 說具紙中又附說一紙 沈水香刺字

壹鉢針斤量

天平勝宗八歲曆 說具紙中

此條志友按聖武崩御續紀五月乙卯、干支朔

ヲ欠リ以テ何日夕ニテ不可知東大寺ノ御忌

及一代軍記ニ五月二日ト記スラ大日本使ニ

ハ儀鳳曆街ヲ以テ推算シ五月三日トスレト

此曆面ニハ五月二日乙卯トハ大日本使ノ

校證届カザル也トノ考案を詳ニス

百萬塔中刺收經附說ニ紙 新羅墨 浚多帛中

天壽國曼陀羅繡仏銘附說ニ帛 菅野真道卿午

書日一帛 仏誕生摩耶夫人像 日名 枇杷氏捺

平田券 口ニ帛

以上其影写の下子和漢の書を引て詳細に考証  
を附せり

一 孕雲箋帖 二帖

後藤光享撰

天保初五年正月林大学以鏡跋并撰者後叙

此編は光享八世の祖庄三郎光次徳川家之時務

子余預す法を以て其次の諸侯より贈る尺牘を

雙鈎鏤版す

福島正則 羽柴輝政 伊達正宗 羽柴為知

蜂須賀至鎮 里田長政 赤松高次 如安嘉

明 菱堂高虎 羽柴忠政 細川忠興 亀井

茲矩 金森可重 前田利光 加藤晴正 池

田忠継 田中吉政 浅野幸長 板倉勝重

藤堂高次 板倉重矩 山形義光 最上駿河

守 細川内記 中川内膳正 松平土佐守

島田兵四郎 以上書簡卅九通

右書中連名有之文中大坂陣の条、多く記す

一 冷海園帖 二編 一帖

此帖堀州寺殿村某氏に收藏し、升て乃一集は函

像物多し故雜書中に収む此編は真写刻する也

は

小野道風 法性寺忠道公 家隆卿 文覚上

人 鴨長明 源貞義 武藏坊弁慶 源義家

定家卿 菅原信綱 護良親王 高

辨上人 楠正川 如阿法師 楠正成 以上

消息促名文下知状懷寄等し 終り子は此人

乞援兵書を載たり

一 英烈遺墨帖 前後 二帖

西村兼文撰

明治三年二月有儀加菱様先序

此帖は近來慷慨有志非命の斃亡古志輩の遺墨

を旨としし摹刻す且其側に小傳を附す其人名

は

水戸研昭卿 菱田東湖 僧月性 成就院忍

向 梁川星巖 頼三樹 梅田雲濱 吉田松

隱 堀利熙 大橋訥庵 清川正明 松本奎

堂 藤平鐵石 田中河内介 平野國臣 田

中 古馬介 小林良典 鶴飼吉丸 虫門 飯田

忠彦 津林光平 安積武負 吉田良秀 界

玉守磨 多田孫太郎 保母猛 中不兼清

中野晴虎 丹羽正雄 久坂通武 松田範我

若杉弘之進 豊島泰盛 真木保臣 松浦

寛敏 中村無二 中村世可 中田尚義 本

山七郎 高杉其風 加藤徳成 日下部翼

村井修理少進 野村望東尼

右方一集明治三年九月刻成

方二集明治方二己々秋々蘭若江蓮子漢字叙

三條実落公 姉小路公知以 錦小路邦徳朝

臣 戸田忠太夫忠敬 成就院信海 飯泉喜

内友輔 村田織部清凡 芽根伊与助 若森

恭助 佐野竹之助 金子孫次郎 母友堅助物

極勤貞東雄 河野顯三通桓 河本杜太郎

内田萬之助 児島草臣 伊東軍兵衛 海坂

宮門 近菱正煥 仙石左右雄 吉村寅太郎

実戸孫四郎 荒巻洋三郎 平尾桃岩助

小橋友之助 松心深藏 岸上弘 石田靖一

即 戸原卯橋 小國魅藏 前田源九郎門

兼 戸丸馬介 清水清太郎 石川一 武田耕

雲 戸 菱田小四郎 木村愛之介 周布政之

助 田丸稻之右丞門 豊田健治 里見治郎



以上四十二人あり

一 堤中納言家集

一帖

紀母之集

此書は堤中納言兼輔の家集を紀母之の書給へ  
はか常子傳よりたはを板よりありたはなり  
及字古法よかおひうたよけのみはへき書也

一 臨地求源鈔

三冊

向若子正真撰

元祿十一年六月獨清軒福謙序

卷上 伏見院宸翰詩歌 後伏見院宸翰詩歌

尊田親王詩歌 尊道親王詩歌 尊純親王詩歌

尊鎮親王詩歌 尊朝親王詩歌 尊應親王詩

歌 尊證親王詩歌 道澄准后詩歌 佛地院僧

正詩歌 田尾正惠詩歌 尊田親王御覽注來

卷中 論字義 論楷法

卷下 入木道專乎之條目三十八箇條

元祿丁丑陽漫撰者之後叙

一 集古法帖 八帖

勢川津藩有造館藏叙載之右左

第一 醍醐天皇 孝謙天皇 嵯峨天皇 後宇

世書保在會

古書保在會

世書錄存

多天皇 光明后 足石 碑 舍人親王 葉

師寺塔露盤銘 惠美 拜勝 楷書

第二 空海行書 贈正遍昭書

第三 橋逸 篆書 菅神 楷書 藤佐理書 藤行

成書

第四 小野道風書

第五 法隆寺藥師佛肖銘 宇治橋斷碑 元明

陵碑 多賀城碑 藤敷行神護寺鐘銘

南田堂銅燈銘

第六 空海草書 道風行成佐理之書

第七 醍醐天皇御書 大定三年敕書 蜀本 新

光定受戒疏 蜀本 秋迦像光背銘 藤道

長書 秋士墨書 秋中津書

第八 弘法大師書

一般 若理趣經 一冊

從一近衛家憑公事

此經跋

天保五年庚午三月念一當高祖弘法大師千年忌

辰日以近衛家樂院真覺手寫理趣經鈔板流行新

表寸烟以刷法 亮深謹識

古書錄存

Faint, illegible text in vertical columns on the left page, possibly bleed-through from the reverse side.

Handwritten text in vertical columns on the right page, written within a red grid. The characters are mostly illegible due to fading.

古  
書  
保  
存  
會

地理之部

一 日本總國風土記

殘欠 写

十四册

卷才十二

伊勢國桑名郡負辨郡

此書卷首三行ありし其下三葉虫喰欠之桑名郡

山濱磯畑野四葉ありし以下欠之負弁郡山所森

四葉あり以下欠之

右者以蓮明院象本訂之官今書写校合不遠一

真者也

天正二年二月八日

中原忠胤 在判

卷才二十九

和泉國日根郡 或 萩根

卷之三十一 伊勢國安濃郡

卷之四十三 遠江國源名郡

右凡土記殘冊十七冊之內遠江國源名郡之餘

卷求藤大納言高基卿之家本与官本校合畢

文和元年壬辰五月下旬 朝散大夫中原師川

卷之四十四 遠江國敷知郡

卷之四十六 遠江國伊波多郡或磐田

卷之四十八 遠江國茶原郡

文和元年壬辰十月下旬 朝散大夫中原師川

卷之十八 知如郡阿字券國津井郡或阿奄膽

卷之七十九 年差國或武刺荏原郡或緣原

卷之八十四 年差國豊島郡上

卷之八十五 同 下

文和元年壬辰十一月下旬 朝散大夫中原師川

卷之 伊賀國伊賀郡阿豆郡

首卷全矣七張脱漏阿豆郡同少十張欠

卷之 伊賀國山田郡名張郡

首卷之欠法辰脱漏不少也

右二卷者雖多脱蒙前害写之畢惜哉和籍之及荒

廢原

天正二年三月下旬 権外記 中原志流

卷一 尾張國海番郡中島郡

右一卷以伊勢長官蓮明院家本写之墨為袖珍可

秘者也

文龜元年辛酉五月十三日 権外記 中尔清藏

一 次 嶺 經 写 九册

北村季吟撰

此編自序曰菟藝泥赴はやまとふ々のとを何  
まりひとつまきみたほさ、さのみかとのきさ  
いのみやのことのはなふさをト部懐寅が紙日本

純よやましろをよまんとおもふ言語あり泥は

山也菟藝は魁也いふこゝろは山おつく也と

いへり玉系集よハ女嶺経とらがけるやましろ

はもと山背ふりしを延暦の遷都の日城といふ

もしよあらためさせ給へりすへらみここの都

し給へる國よしけよ七やま相つゝき水きよく

かこゑしと、たらすりそり木草もたちさかへ

つゝまことよ民のと、まは皇善の処ふは名

高家故あらあともおほかふさをあふ人見名と故

とさかきしるしてよどのたまふよさきよすし

古書保

古書保

よし成せ成物も世はおほかり又さへある人々  
そろけたまはらめとすまひけれと世はおほか  
はは信しかたし只中かかきたらんじろとし給  
ふ夕ふたりのみたひもなりまた成ささのみ  
いなふとははかりあはしとし成享のはし  
めのとしはつきのまかより成さるめてけふ我  
月りつきこへ成日いさをしを、はりはぬ比は  
と玉の子をめきつらぬたはは貝まくらとは  
さもちひてふんかくつきぬふとは名つけ付し  
如お季成所玉田島の麓下子書

此編第一卷禁裡内侍所清凉殿御殿を始諸友  
所を粗記し名所旧跡に到りては證奇を奉雍州  
府志山川名跡志各勝志京童名所記ふとふ不載  
予多く記載す方二卷之末に洛陽年中氏召風俗  
と委詳に録す今を去る夕百七十年餘大に其風  
姿之遠ひ可見多し豊國之廟此頃まじ其遺迹  
残りたりしとや卷三日曰豊國大明神大心之東  
阿弥陀奉の繁豊厩太閤之神廟也山上におさめ  
申せし古廟別とあり社壇の彫刻廻廊棧門めも  
か、やけり桜花散乱の比都人春遊の処ありし

古蹟  
書  
傳  
存  
在  
會

古蹟  
書  
傳  
存  
在  
會

古  
書  
傳  
存  
會

此比は樓門老ふ北ふ社頭とちかたふきと花  
子も涙を乞ふきつへし一二之函巻は洛中  
三部り八好到り終也其中三と巻を上下子  
七部合九冊と全本とあり  
一 和州舊跡巡考 二十冊

林宗甫撰

延宝九年西孟夏自序巻終全國之畧圖を載宗甫  
者元洛陽之産移住寧樂權場古託二百余部撰  
成此編云々  
卷自一至 添上郡 卷十一 芳野郡

卷五 添下郡 卷十二 葛上郡

卷六 平群郡 卷十三 城上郡

卷七 所味郡 卷十四 心辺郡

卷八 葛下郡 卷十五 高市郡

卷九 忍海郡 卷十七 宇太郡

卷十 宇知郡 卷十八 城下郡

卷廿 未考郡 卷十九 十市郡

一 参河國二葉松 五 五冊

佐野堅知亮編

元文六年正月小室原基長渡辺堅二序撰者之跋

古  
書  
傳  
存  
會



方一 國名并八郡之鄉村附新田等延喜式內

國之內廿六座神社之所在

方二 神社仙閣之部三河諸侍所

方三 當國古墳之部大樹寺并東村妙眼寺由朱

平寄進狀之有增當國之島名景物五ヶ之

濱土產名物諸木部

方四 古城記

方五 名所并西御能野権現八景之詩哥等之記

編者佐野知亮八參川宗叙郡官島郷長山村之

處土也

一 近江國輿地誌 厚 西冊

膳所藩宮川辰清撰

享保甲寅仲春伊藤長胤漢字序武村勝重之跋

此書元永漢文なりしを藩天之命子依り假名書

之月寸由書体風土記之類なり本編百冊之外序

凡例一冊之附寸

卷一引用土記之類也本編百冊之外序凡例一冊

之附寸

卷一引用書惣目錄但引書四百八十四部之外社

行 書 保 新 會

古 書 保 新 會

古  
書  
傳  
存  
館

寺之縁起之類は除之卷二建金沢車卷三藩封卷  
四川程卷五湖氷卷六より廿八子到り志賀郡卅  
九より四十八子到り栗田郡四十九より五十三  
子到り甲斐郡五十四より六十五子到り蒲生郡  
六十六より六十九子至り野洲郡七十七一神  
崎郡七十三二等知郡七十四五六七上郡七十七  
より八十三子到り坂田郡八十四より八十七子  
到り浅井郡八十八より九十一子至り伊香郡九  
十二より九十四子至り高島郡九十五九十六人  
物之部九十七より一百二子至り土産之部有り以

上荒増子記載す

一 駿河小誌

一冊

簡堂羽倉天則編

此書一名駿府志略併襍記といふ卷端凡例あり

郡門之今し八類とす興替郡城藩封附海港郵驛

附山氷寺廟古蹟人物之産等也治字板といふ也

一 甲斐名勝誌

五冊

萩原元克編

天明二年三日朝散大夫源光章并龍橋源昌綱之

古書  
傳  
有  
會

二序同三年卯九月源憲時漢字の後叙  
此書ハ昔同四都之勝蹟を記し宮祠寺院に如き  
は只大城を載也延喜社名式及風土記に載之  
宮祠は克く其蹤跡を詳しなす此國之身跡は武  
田氏に因縁殊に多し  
甲斐ハ峽之彼名字也凡土記に今歳日本紀には  
柯彼續日本紀には歌斐共書り皆從名かきたり  
又字彙補に岷字曰曰本有甲斐國此國之名号既  
に日本紀景行天皇之苑に見へし左に稱ふり  
一 奥羽觀蹟聞老志 厚 二十冊

佐久間義和編

享保四年孟秋漢字之目叙

此書始に一國郡縣を挙げ次に叙官使次に土  
貢を記す是奥羽之暇濶歷代之人物土地之便利  
を見せしめむと欲するにたり次に名跡を以て  
地理の考證を詳し次に古事を以て古今の治  
乱を考へ次に遺棄を以て東國の口説を知り終  
之以東遊而其事實を証する也其例目は  
卷一 國郡川縣畧考建武の比陸奥三十一郡  
羽四郡也拾芥抄曰卅六郡也羽十一郡節用集曰

古書  
傳  
有  
會

五十四郡出羽十二郡環翠軒節用集曰五十六郡  
以上郡數異同考

卷二 官使類此編八歷代之官使征夷使と輯也

往昔 9 武備と知らしむ

卷三 名貢土産類下上

卷四 名蹟類 苅田郡 栗田郡 伊是郡 且

理郡

卷五 名取郡

卷六 宮城郡下上

卷八 同 尾川郡 登米郡 志田郡 玉

造郡 坂美郡 栗原郡

卷九 同 桃生郡 遠田郡 牡麻郡 久心

卷十 同 盤井郡 瞻沃郡 江刺郡

卷十一 同 呼達郡 信夫郡 安達郡 安積

郡 岩瀨郡 會津郡 白河郡 岩城

郡 菊田郡 標葉郡

卷十二 同 行方郡 階上郡 新田郡 長岡

郡 葛岡郡 田取郡 小田郡 志波

郡 富田郡 耶麻郡 糟部郡 肥後

郡

石巻郡 仙台郡 青森郡 秋田郡

郡 郡 和戎郡 稗貫郡 盤牟郡 津輕

卷十三 此編七册 一國之度と識す

卷十 延故事類

卷十七 義經事實考

卷十八 遺子類

卷廿 東遊類

此書曰心畫領ハ詳細な小と他領は至り疎なる

あり

右 觀跡聞老志廿卷 緯借堅田侯秋本座敷人書

写之

寛政十年十月

源 弘順

一 奥州五十四郡考

新井 筑後守君美著

享保八年卯夏佐久間義和序

此編白川薄石齋典之補遺義和ハ觀跡聞老志の

撰者ナリ

此記廿子此同と稱し以為五十四郡而古有三十

五郡今亦稱五十二郡其說皆不合と云つて古記

を引く其誤を正し考を附す然も白石未備考或

古地圖 書 傳 存 會

ハま、謬リあるを以て広瀬氏此子補遺を加へ  
しあり

一 奥羽海運記 一冊

新井 訖 渡子 若美 著

此記は諸州より奥羽函館一運輸之道を関がむ

為め、其事と述べし書あり

一 上野名跡志 七冊

富田 永世 輯

卷端極井上野権介供慶朝臣之題字千種正三五

有切脚之序、奥子

書亦くはいかほのぬまり、か子してつは止

椿つはらか子見幸

次子凡例兼上野國方位畧圖引書目錄二百余部

を奉く凡例は云此國のことも近き世に託せる

書は上野風土記上野志上野名跡考上野傳説雜

託ふと升文たり此書とも子初し見之しことは

みな其書名を奉て託しつ名所之證哥は勅撰集

をむねとしし其餘は見る子たかひておしつれ

撰家集託行赤とひるくと免ハ於そこは人の

歌あるへけれとさの升はわつらわしけれは也

古書備考  
在館  
會

古書  
保  
在  
會

とめす但し天正の比はしよりいふたふは挙

才一 上野国總説雜夷国造国守真馬牧名

才二 縁野郡 元田郡 多胡郡

才三 甘余郡 碓井郡 内諱通國 佐久郡 吾妻郡

才四 群馬郡

才六 那波郡 佐位郡 勢多郡 山田郡

才七 下野国足利郡 新田郡 邑乐郡

安政元年寅之春上梓

一 紫之一本 写 二册

戸田茂庵入遺佚編

元和三年五月撰者之自序

此書は江戸之名所記よしし初めは古城三ヶ所

より其縁故を記し次は山九ヶ所坂廿六谷七窪

四川五島六堰二池四井九橋八渡四船七野五小

路三塚九馬場九花七ヶ所杜鶴一ヶ所月二ヶ所

紅葉一ヶ所雪二ヶ所祭十一時鐘六ヶ所名所毎

子詩奇狂歌を多く載す各々自詠よしし其名称

を明らかきすさかきと記し文よしし名所記の文

法子はあらず故に号さし成り中より多し陶・舟

古書  
保  
在  
會

古  
書  
保  
有  
會

は詩を作り送珠は和奇を詠みり皆々促り名亦

り

一 四神地名録 十冊

古松軒辰黄薇山人編

寛政六年六月撰者之延名小序

此編は卷一二武蔵国豊島郡卷三四多摩郡卷五

六荏原郡卷七八葛西郡卷九十足立郡以上五郡

之地名を惣同風土記及拾芥抄より抜出あしし

悉しく江戸地方尚今も杜寺より村里まで微

細くし加ふあひあひくも因を加えたはあし然

し其筋へ奉呈すはよしを載せたり

一 常陸郡郷考 十二冊

官本元球冲坊著

安政六年未正月題言よ之斯書は風土記之全文

と郡郷に配しし委く載せ其山川地名等は皆今

地子験しし是を考へ和名抄郷名神名帳之官社

兵部式の駅家国史贈位と神及庄保和孫の郡領

松の名所等まし遍く古今之諸書及古文書等に

必し其考を著せり其余毎村之田額村名と変遷

等は後編志料に譲りし此に畧す且卷首に小因

古  
書  
保  
有  
會



古書保存會

之製し其方伍と示す卷一建國原始境土々讓  
次清田額出奉調庸雷伏馬收驛傳馬雜菜健児官  
負大守同造盛衰卷二新治郡卷三真壁郡卷四筑  
波郡卷五河内郡卷六信太郡卷七其成郡卷八行  
方郡卷九麻島郡卷十那珂郡卷十一久慈郡卷十  
二多珂郡附録式外贈位神祠二万延元年七月新  
刻  
此常陸誌料は八種あり常陸國郡郷考十二卷  
常陸長曆一冊麻島長曆一冊關城釋史全平氏  
譜七卷前佐竹氏譜後佐竹氏譜三冊小田氏譜

二冊諸族譜二冊以上八種又後篇三種新田村  
名考二冊候伯譜二冊逸史二冊合十冊  
一 吉蘓志略 一冊  
尾藩松平秀雲著  
室曆下丑晦月之小序  
吉蘓政祖木曾皆音便し轉ふり始ふ此這濃國  
吉蘓名産十八種の因あり次子驛支村山川  
口祖統田畝土産神祠寺觀形勝古迹宅址等を区  
畫し漢字を以て記す古城官舎津梁人物陵墓を  
也録す或処あり木曾三十二驛い外子三浦を附

吉蘓志略

記す

一 畿内治河記

新井瓦後守天美著

一冊

此編は天和三年癸亥大子殿内治河に役を興し  
 之議ありし時其水源を計り其末流を導し其  
 見を呈り令せし書なり兼文梅子河村瑞見此役  
 子淵原し大子刀を令し安治川端見山を築し  
 時なる一も  
 一 堀川の水  
 八冊  
 芦川菴似船著

元禄五年六月假名自序

此撰者似船似俳人子し京師堀川の末塩子治村  
 子す丹し其またりの名処を始め之の  
 を記す卷一稻荻旅社田中時雨瓜田夕照卷二南  
 里川藍村路若草七条南客堀川蛙声卷三橋上秋  
 月東寺曾鐘極陀林藤以上七条玉屋敷十景村路  
 若草之編は洛西鳴原之因并記あり中昔の様想  
 像すべし卷四春卷五夏卷六秋卷七冬卷八雜以  
 上都合子しし俳句を次子古牙并澄奇也載句は  
 其比諸国よりあつめまゝ自今勺あり元禄七

年五月上梓

一 諸國名義考

二冊

藤原彦麿著

本居大平氏樹之序跋川喜田豊之校

此書は諸國之名義を和名抄其外の古書より

考証あり國之名義ハ人々よく心得ぬこ

と有ゆを古人未だ之考をあらはせし共いふべ

し

一 會津旧事雜考

写

九冊

會津藩向井新兵衛著

山崎岳加此書を一覽致し題号残會津半始と相

改め此今ハ初の如く旧事雜考と稱す

此編は保科正文朝臣之命より會津領内之社

寺または旧家之藏する此之古記を採りせら

水上は神武天皇より明正院の御号寛永二十三

年まし二千三百余年之間會津四郡を關する處

り古事年曆を編集す此用する書之内伊佐得美

神社之旧記尤珍記なる子可惜天明三年の回祿

子焼亡せし由也會津四家合考また神社志也此

向井氏之撰する處なり

古書保存會

一 八丈島記

写

二冊

記者知れず呼至七島を其の初めより冬の末まで見廻りし日記にして鳴々と風景あるは鳴人の形容あるは奥島草木亦と何となく記載す下と巻は函の冊にして其厚する也記者應歟とあるは何人の子や且為朝の哥として秋亦くもツ末まこれあした草のもす法人のあらんかきりは亦は此島の人ハ鹹草あしなを以五穀子代人用由れはあり

一 薩摩風土記

写

三冊

編者知らず此記俗文にして処々子因を加ふ且信し雜さすト多々あり又他國に古き珍話も不少を以て及ぶ挙く麻兒島年中行事祭礼の記琉球の記和宗門停止の事馬船渡来の事阿蘭陀渡海に事工キレズ船渡来の事霧島心の事阿蘭陀人入洋の記名銀治の記城下大焼七の事阿久根塩田之事天草の事白水の道古之事長崎由來記瀨田孫兵衛之事馬原天草一揆の事諸方里数事等を記す

鳴津家由緒并家門一族方知の領処に身諸土  
知り高之身亦とは殊用すへき子あらず

一 備中村鑑

二冊

渡邊与平正利編

文久紀元其阪谷素并編者に西序戴星道人序と

跋

此編は古本に備中諸治光序託とあるは坊に増

加せしものあり首端に吉備中山細谷川碑野々口

吉備公墓碑評寛播守日芳橋銘并序時版起之年沙

美浦奇等を載せ次は一國十一郡之村名并諸領

主其村高次用達庄友年寄等是名前當國三十三

所公利式内十八神順道本州古城跡并諸城主を

記す

一 歴國行程記

写

二冊

貝原煥軒馬信著

此編中吾孺路に記し跋に曰過しし年の春君の

命を受けし東武子行終年の日郷里に帰りぬ同

し年の冬又命をかゝりふりし再ゆき今年の三月

春と共にかへり去侍候時東山道遊歴之つと未

たまは也氣るふた、ひ往來の間通行處の道路

古書保存會

古書保存會

の里程名区故迹又は佳境勝景或は神社佛寺  
いみしき所々あるはふ成き戦埒城壘ホと其里  
の人を尋てしるし集めしかはやくやく一冊子  
となりぬ是我が後記洗子備へんためのみが  
は、また其處を見ぬ人は人つては聞わたはも  
控なくさむふらひなれば我人のため軍子まか  
世俗語を以て唯其無きのみあらわし侍は天下  
之名区佳境を見令さん子を好みしは古人の三  
之類ハの一也されはキ樂しむ富貴功名を得る  
よりは尤得難しつかんとなれば山川よき處は

造化おしめて世人の容易に見る事を許さすと  
いえり然るは我が有る幸ありてか此得かた  
き清福を得るや誠は天恩と君恩はひとしく忘  
とほり通りし時促初は里人馬卒のとちからよ  
とひて聞あつめし事共なればは珠璣ある事多  
かりふん地理を忘からん人の剛補を待りし  
貞享二年八月日 筑前貝原篤信  
本篇歴國之行程記は左の如し  
吾婦路之記 江戸より尾川築田迄を略  
記す

古  
書  
保  
存  
會

美濃路之記 契田より京までのを記す

播川の道記 播州高砂より室造の道里を記す

十

東山道之記 江戸より美濃までのを記す

日光行程記 江戸より日光へ行道之記

日光心之記

倉突道之記 日光より上州倉突野迄の路を

記す

定利記事 野州定利学校之紀あり

関ヶ原より敦実之道の記 敦実より京への道

之記 安藝国嚴島之記事等を集めて編なり

一 熊野道中記 厚 一冊

此記者詳かならず卷端に享保七年壬寅十月指

上り熊野道中記之草稿也と云々 紀州之大守熊

野へ御糸詣より撰する書なる由卷後より七升

一たり依て和奇心より里程并御村或は名所曰

蹟を記し頭書より別考を附し本宮新宮那智三山

の因あり熊野即幸定家記に載し王子の扱名を

附録す但し是は鳥羽よりの御幸にして播州阿

部野王子より記したり

古  
書  
保  
存  
會

古  
書  
保  
存  
會

一、國郡全圖

尾州青生東籙元宣撰

二冊

享和三年九月式部權大輔菅原長親卿鴻濛内用  
觀每秦男及撰者之四序奥田叔建之復叙  
此因每國方田曲直之形状ハ水戸赤水之日本路  
程全國ハ効ふナレト其國ハ大小廣狹を不論一  
紙面子載るを以てまゝ、殊亦成あり但し陸奥出  
羽薩上等之如キハ二三系ハ流ルリ郡を分つは  
粉色を以て見易からしむ天保八年西十月新刻  
寸

一、題置本朝往古沿革圖說

繪山義慎著

二冊

佐藤一研坦序水戸翠軒三原萬後叙  
此書文化十二年下世太平因說一恒を撰し後又  
此因郡ハ沿革を記し先書を以附記となす由凡  
例子挙げ且沿革ハ神武帝の朝より始めし大長  
元年因名是まりし所ニ終其因名以粉色分別  
寸此謂沿革之各因ハ  
征韓因 推古天皇廿六年之因 神明天皇六  
年之因 元正天皇養老四年之因 淳和天皇

古  
書  
保  
存  
會



天長元年國名全定之圖  
天曆元年公武治革  
圖保元平治鬪爭沿革圖  
元曆元年公武治  
革圖延元二年兩朝並立圖  
元中九年南世  
盛衰圖應仁元年東西干戈圖  
永正六年兩  
管二川分爭圖弘治二年列國割據圖  
永祿  
十一年足利更替圖  
天正五年雄傑爭衡圖  
天正十年軒氏全盛圖  
天正十四年豊臣征遠  
圖元和元年四海一統  
下代声基圖等之集  
文政六年孟冬上木盤松軒藏板  
一 大江戶圖說集覽  
圖一冊  
一冊

橋本玉蘭并画圖

嘉永五年癸丑之書自序

此編は江戸往古の圖永祿年間江戸之圖寛永板

江戸繪圖縮寫之三四より江戸繪圖碑之記及

以有名之社寺を有増し載せ沿革を詳しし別

寛永板之大繪圖を附す

一 幅三見集地之全圖  
大一枚

秋山永年墨仙著

天保癸卯春舟橋晴潭船越守愚及著者之三序

此圖は撰者足跡す成り十余年之功勞を以成就

古書  
保元  
平治  
鬪爭  
沿革  
圖

ふす処なり十三州とは武蔵安房上総下総常陸  
上野下野相模甲斐駿河伊豆信濃遠江等望嶽  
する之図也城下陣屋驛村支那新田所古城古  
戦場温泉神社公家名勝舊迹等激細也  
一 富士根元記 一冊

鈴木頂川著  
此書は著人多年諸國を經歷せしついで駿河  
之富士をばしめ津軽のふし筑紫の不二有馬及  
以其外國々々あるふじの地理をさくり諸書に  
よりと古事ふとを挙る

一 板實測日本地圖 九心枚  
此地圖一々幾内東海東北陸一々山陰山陽南  
海西海一々北蝦夷一々蝦夷諸島の図にして方  
位緯度位置を詳細にし里程は録し讓りし除之  
一 北蝦夷圖説 四冊

同宮林藏倫宗口述備中泰負廉編  
嘉永七年寅十月益堂鈴木善教大坂主税國之函  
序  
此編一名銅柱餘録と云繪者橋本玉南直探舛両  
人亦り

卷一 総説部 卷二 南方<sup>初</sup>島部 卷三  
南島<sup>初</sup>島部 ヲロコ天部 卷四 又

ノレンクル夫部附録

此篇北蝦夷地総説島名地勢産物交易南方初島  
人物飲食居家産業冠婚喪祭ヲロコ夷人スノ  
レンクル夷等ノ変々載テ守政ニ卯孟及上木

一 北蝦夷新説 一冊

阿州岡本平著

下卯仲冬自序清水谷侍従公考朝臣之次序

卷端蝦夷之畧因附録ニクブン夷語を載す

此編文久癸亥之四月江戸を発して三ヶ年間在  
島ニ中目撃之形勢を述作し開拓捕魚ノ利を論  
した一<sup>一</sup>篇之漢文を卷後ニ載せたり明治元辰  
仲冬上梓  
一 拾ふ玉藻 五冊

源輝星纂多真彦校訂

文化己巳晦月之附言あり

此書一二之西卷は浪速之地名大坂三郷ノ沿革  
を記し其余回書より抄録して児童ノ輩本邦ノ  
書を閲ふニ使ふる事多く載せたり

古書刊行  
書目録  
在  
會

一 名山図譜

三冊

谷文晁著

文化元年九月自片柴邦彦島原監行之二叙川上善之政

此篇は著者却より山水を好み諸州を漫遊し名

山大川を遍歴し其風景を写すに其景

況をよく画きたり五畿内より蝦夷に到り山巖

し図八十九種を収む文化二年丑正月上梓也

一 沖繩志

五冊

伊地知貞馨著

中村敬宇岡十伍之両序重野安釋之後叙

此書一名琉球志と云卷一地理志卷二官職志頁

載志物産志政俗志卷三より五に到り予蹟志附

録子那覇漢録也此予蹟は蝦夷七首を要旨を

摘し餘めて簡略に從ふ其薩藩に係る者は専ら

伊地知君季安が南聘紀考に地志物産の部は圖を

以て知らしめ予蹟之部は上古之予を説く無稽

證す成るべきを以て推古天皇十三年より明治七

年まで此篇引用書目七十五部を載成然此書

曰薩藩の予に成し書亦此は此國の地志は此書

を以て全備せしと云へし且史傳之如きも斯く  
近年まじりて書綴りあるは外書とは大に異亦  
成件々も不抄あり

明治十年九月上旬刻成す

一 海東諸国記 一冊

朝鮮国禮曹判事叔舟著

成化七年辛卯季冬日自序卷終に左に圖を載す

海東諸国総圖 日本本国圖

日本国西海道九州国 日本国一岐島國

日本国對馬島國 琉球國圖

本編に記す成化元年日本国紀天皇代序に編神  
武天皇より西四代後土御門天皇文明三年辛卯  
に至る力二国王代序は右大将朝より足利義  
政迄略記之次に国経道路里數但日本紀用其年  
号道路用日本里數次に八道六十八州之記對馬  
鳴臺皮島附次に琉球國紀国王代序國都國経道  
路里數但琉球記用支那年号次に朝聘應持記也  
弘治十四年四月廿二日之契書あり編中日本年  
号之余大化以前に左の年号を挙ぐ継体天皇十  
六年壬寅始建年号為善化五年丙午改元正和六

年辛亥改元元元元年宣化天皇元年丙辰改元僧  
聽欽明天皇即返二年辛酉改元同要始為文字十  
二年壬申改元貴樂三年甲戌改元結請五年戊寅  
改元元初二年己卯改元藏和六年甲申改元師安  
二年乙酉改元和僧六年庚寅改元金光敏達天皇  
金元五年丙申改元元覽接六年辛丑改元鏡當五年  
乙巳改元勝照崇峻天皇勝照五年己酉改元端政  
推古天皇端政八年辛酉改元煥轉五年乙丑改元  
光元七年辛未改元崇居八年戊寅改元倭京六年  
癸未改元仁王舒明天皇七年己丑改元聖德七年

乙未改元僧要六年庚子改元命長皇極天皇用命  
長在位三年孝德天皇命長六年丁未改元常色六  
年王子改元白雉と云ふ事記し大同の字見へす  
新安年簡子曰朝鮮の海東諸国記す本朝之年  
号共ふはき代よりの号共一々書り也有之は  
未だたの史籍に見へ不申事勿論之なりし雖  
然諸国神祠に宇等の木像を昔より記し金に  
十の又は古き原国杯は海東に見へは年号故  
七多し記しは物共甲子等七大かた符會は十  
見へ申す然れば海東に記しは事一向に無根

のり共申破かた人様子見へは定分此義亦  
と貴府の人々所余義小細可有之は習所示  
敬可参り大抵は其代子文字はまた未熟子付  
ままり子浅々之身共子小故後子使を撰付北  
し時子削去られし子也と存小処より持統之  
世子永昌を記し小なと我見小得は一層之不  
審を増小様子存小  
橘窓茶話曰海東諸国記述室町氏風俗最為詳  
悉乃申叔舟誓留皇京所親而録之者也  
又八道六十八州記中山城而之条曰都中閭巷道

路皆方通四達每一所有中路三町為一條有七路  
井井不紊凡九條二十万六千餘戸云々此頃京師  
之繁榮可見也  
天皇国王之殿舎より扇山細川武衛公名京極寺  
歴世之奥院を粗記載之具外甲斐政盛伊勢守政  
親河野教通飯尾之種宗見信忠鷹野晴長等之共  
比小夫進之身を録し其餘諸国主或は其国々代  
官人名を載たり  
一 蝦夷國境輿地全圖  
一 枚  
惇 藤田良著

橋本玉蘭舟箱回嘉永七年四月上拜

一 常北遊記 一冊

水戸青山延壽季卿著

拜庵佐直之叔兼御序棕園散人森蔚津田信存之函

跋 此記は安政二年乙卯九月廿日常州水戸表を発

途しし同十月五日帰邸常陸國北方を越行する

処日山川地理等を採り神祠仙閣を巡覧し名

所曰蹟等之事を録す附記に詩十首文二篇を載

大

一 東西蝦夷山河取調割図 七八枚

一 東蝦夷日誌 三冊

一 西蝦夷日誌 三冊

一 納紗布日誌 一冊

一 唐太日誌 一冊

一 石狩日誌 一冊

一 久留日誌 一冊

一 十勝日誌 一冊

一 知床日誌 一冊

一 夕張日誌 一冊

古書保存會



古書  
保  
存  
會

一天  
益日誌  
曰

一 航  
夾行程記  
曰

一 航  
刷日誌  
曰

以上  
松浦多氣志樓著

此諸書  
は其各地  
山川原野  
の里程より  
人戸の

負數  
或は山  
の名産鳥獸  
草木に到る  
まじり審考

し加  
ふ成子  
圖画又は  
奇と添ふ  
成不才  
頗成其詳

細  
を極  
む就中  
地理を解  
く及此  
編子過  
たるは  
友

し此  
余同  
成に著  
す此箱  
館往來  
航夾語  
選沖の  
石

有る  
又し  
畫の  
いし  
同細  
見航  
夾漫  
画ま  
わる  
又し

此外  
子七  
種ある  
一し  
悉く  
此地  
子係  
に百  
編あり

一 北  
航夾  
餘誌  
一冊

松浦  
多藝志  
樓著

一 日  
本地理  
撮要  
二冊

大橋  
操吉誌

此編  
卷端  
に日本  
全国を  
挙げて  
緒言を  
附す

卷上  
位置  
広袤  
同郡  
都府  
河湖  
気候

風俗  
動産  
植産  
磁産  
製造  
貿易

卷下  
鉱山  
惣数  
全国  
人口  
各州  
人口  
諸艦

乗組  
人員  
鉄道  
里程  
海路  
里程  
燈船

古書  
保  
存  
會

燈台 浮標 碓標

明治五年八月上梓

一 南沢録

一冊

簡堂初倉用九著

此篇ハ初倉氏南沢ノ日記ニシテ八丈島其外伊

豆之諸島ノ風俗禽獸草木等々テ遊一眼前ニ見

ル如クニ記之尋序南島ノ諸書ヨリ短簡ニシテ

却テ予理ヲ詳ニセリ

一 蝦夷志

一冊

新井汎庵守夫美著

卷端文久壬戌飽菴榮本親序

此篇ハ初浦武四郎松代蝦夷園境圖ヲ校正附録

ニ刺スルヲ以テ書セル序下リ又藤田東湖氏ノ

詠五リ

初浦ぬしか蝦夷ノ行を送リ下

玉舞のみちのふこえし兄成母しヨ帳夷が子

鳥の雪の曙

享保庚子正月白石自序次ニ蝦夷地圖説報夷小

蝦夷以上三篇ノ記地方卸落産物等漢字ヲ以テ

粗記載ス

古書保存會

古書保存會



詩文之部

續群書一覽

巳  
下

古  
書  
宋  
游  
館

詩文之部

一 凌雲集

寫

一冊

從五位上左馬頭小野岑守撰

自序曰自延曆元年終弘仁五年作者二十三人詩

總九十首合為一卷名曰凌雲新集臣之此撰非臣

獨斷與從五位上行式部大輔菅原朝臣清公大學

助外從五位下勇山連文繼等再三評議猶有不盡

必經天鑒從四位下行播磨守臣賀陽朝臣豐年當

代大才也迫緣病不朝臣就間簡呈更無異論從此

古  
書  
保  
序  
會

古  
書  
保  
序  
會

定焉臣岑守言

此集之作者は平城太上天皇二首御製嵯峨廿二首淳和皇太子

五首參議冬嗣菅野真道一仲雄王二播磨守豊

年十三良岑安世二紀伊守道雄二正五位下林宿

禰婆婆二上毛野穎人一岑守十三菅原清公四征

夷副將軍陸奥介小野永見二淡海福良滿三仲科

吉雄一高丘等越二坂上令經二大伴氏土一滋野

貞主二多治比清貞二乘原宮作一桑原服赤二巨

勢志貴人一以上二十四人九十一首一序文多し一人

又卷後に坂田永河一菅原清公一紀御依一無品

妾有智子一惟長高尚一島田忠臣一大藏善行一

小野滋蔭一藤原直方一平惟範一藤原滋實一同

定國一紀長谷雄一藤原時平一三善清行一三統

理平一此余十八人之詩一首宛舉之一本に此詩

四十五首不載あり

一傳教大師消息集写一冊

此編は天長八年九月廿五日沙門最澄等十五人

受戒を弘法大師に請ふ之消息を始めとして四

十通悉く弘法大師宛之書牘而已を集む此頃は

弘法大師洛西高雄之神護寺に住せられしを以

古書保

て高雄大阿闍梨と書せり卷後には沙門恭範の  
消息三通を書す其文章之鄭重なる盛唐之遺風  
を佩たり將此内傳教大師灌頂を弘法大師に被  
請たる其節之本書は現に神護寺之什物に傳ふ  
此消息中之一篇を爰に擧げて其一例を知らし  
む  
貢  
修行満位僧圓澄  
大安寺  
右僧久年最澄之同法深仰直言道欲其修  
行状乞垂子地之哀令侍受法庭不任至志

奉名和南貢

弘仁四年正月十八日

受法弟子最澄上状

高雄大阿闍梨法前

一文筆眼心抄写一卷

弘法大師撰

此編は大師帰朝之後文鏡秘符論之著述其御心  
に不叶と覺へ編輯ある處にて文永弘安頃まで  
の著書には引用ある事往々也然るに其後此書  
を抄出あるを見ざるは元弘建武頃の動乱に失

古書目録  
信濃  
有  
會

たるにや兼文明治十二年之秋不圖此書を手に  
入れ秘藏せしを朋友山田永年氏之求めにいな  
み難くて相譲れり今は同家之珍藏となり大師  
真蹟之名高く世に知らる序文は虫損雖不少為  
参考此に擧ぐ

文筆眼心抄 ○ ○ ○ 金剛峯寺 ○ 念沙門遍照  
金剛 ○ ○ ○ ○ ○ 諸格式 ○ ○ 文鏡秘  
府論 ○ ○ 卷雖要而文色而披誦稍難記今更  
抄其要會口上者為一軸控鏡可謂文之眼筆之  
心即以文筆眼心為名文約義廣功名益深可只

緩生寫之誦之宜唯立身成名乎誠乃人傑國寶  
不異拾芥于時弘仁二年中夏之節也

本文は月録四十四凡例 四聲譜 十二種調聲

八種韻六義 十七勢 十四例 廿七種禮 八

階 六志 廿九種對 文廿八種病 章十病

章二種勢 文章古體 文章六失 定位四術

定位四失 句論

以上詳細に書記し詩文之作例は悉く唐詩にし

て全唐詩にも洩たり詩あり

一 東塔法華三昧堂 壁畫大師贊集 写 一冊

古書 任有

古書 任有



橘在列入道尊教編

此集は元慶九年八月之比比叡山延暦寺に在列入道登山之砌東塔法華三昧堂之壁畫に加へた了賢集也其大師は善無畏不空金剛智三藏南岳智者灌頂智威惠威玄朗湛然道邃之八大師僧加和尚一行惠果順曉義真法詮之五阿闍梨婆羅門僧正聖德太子鑿真和尚行基僧正傳教慈覺智證三大師義真因證光定安惠惠亮延最靜觀之七和尚にて又雲州刺史藤原文隆之和韻之長篇二律を載す今其一例を爰に出す

聖德太子

南岳後身為吾諸君海香冷灑天花繽紛青龍馭黑駒躡雲便知芥身馨至芬

一 江願文集

殘闕

写

二冊

中納言大江匡房卿著

此集は殘闕にして五六之兩卷也今其祈願文之目錄を載美作守匡房為亡室願文 同人為亡室作善文 為房朝臣甘露寺修理文 右中弁為隆勸修寺佛事文 皇后亮有佐堂願文 源中将師時為亡室願文 為養母寫經追善文 為考妣千

日講	前美濃守知房朝臣願文	同人為二親千	
日講	願文	前上野守敦基朝臣逆修文	丹後守
正盛朝臣願文	右大弁長忠賀茂大般若願文		
法華三千部轉讀文吏務人堂願文	上総權介季		
清紀伊國堂文	醫師俊則堂願文	雅樂助源金	
峯山詣文	美作土民散位藤原季隆塔供養文		
肥後權介相忠作善文	為湍大般若供養文	恭	
兼方堂供養文	近友大般若供養文	同人堂并	
五部大乘經供養文	大炊頭賀茂光平為妻周忌		
供養文	丹州廳官堂供養文	内相府家業等為	

守君供養文	受領七日逆修文	高階經敏金峯	
山詣願文	知識華嚴經供養文	八幡宮不断念	
佛緣起文等也	以上悉く匡房卿之代作		
一	作文大躰	寫	一卷
中御門右大臣宗忠公撰			
長承三年七月撰者之後叙あり			
此編卷端には擬香山摸草堂記一篇を載せたり			
宗忠公は中右記之作者にして頗る博識之公也			
作文之大躰は小僧某に被授處にて其荒増を録			
したる書也又此編同名異本あり大江朝綱之撰			

古今圖書集成  
 家範典  
 卷之...

古今圖書集成  
 家範典  
 卷之...

天慶三年七月五日之序ありて別本也勿混事本  
書は洛南東寺之所傳近く群書類從中に收むを  
以て此書は除くと云々

一朝野群載

殘闕

写

七冊

藤原為康撰

此編群書一覽に多く官府にあつかれる文を擧  
又雜文之中には田地賣買券なとも載たり遊女  
之賦にはいにしへ遊女之名をあまたあけたり  
文ことに作者の名をしるす其作者は花山法  
皇前中書王源順大江匡衡同明衡同佐國以言匡

房源經信菅原輔正及為康等也此書古き書目に  
は三十卷としるせり今之本は十八十九廿三廿  
四廿五廿九三十以上七卷欠たりと今兼文見  
處を擧れは

卷第二十

太宰府

付異國

卷第廿一

雜文

上

卷第廿二

雜文

中

卷第廿三

雜文

下

卷第廿六

諸國公文

中

卷第廿七

諸國公文

下

古今圖書集成

古今圖書集成

卷第廿八 諸國功過

編中異國之條異國賜本朝人位記 本朝賜異國

人位記 上人申渡唐東大寺送大唐青龍寺牒又

雜文之條諸國召風土記官符 釋奠說文 蛭食

勤文 牧馬生益解文諸國公文之條解文返抄返

却帳同功過之條申文續文大勤文覆勤等之古文

書を擧ぐ奥書に曰

大炊御門右大臣經先公以御本而令書寫之者

也

元祿十五年壬午年七月廿八日

明空澤了判

一 僧申文

写

一冊

鳥羽僧正覺融撰

此書に載了申文は藤原敦光之草僧綱申轉任文

僧綱以下申諸寺司文 凡僧申僧綱文 申維摩

會講師請文 申大乘會講御請文 下申修大元

文 請申灌頂請文 申供奉文 申阿闍梨文

以上之文例也

保延五年六月作之

一 迎陽文集

写

十三冊

古書 保元平治 承和 會

菅原秀長卿撰

卷一 後白川天皇自久壽度到後鳥羽天皇建

久年号勘文

卷二 土御門天皇自正治度至四條天皇仁治

度同上

卷三 至德嘉慶以上兩度年号勘文

卷四 康應明德以上兩度年号勘文

卷五 應永度年号勘文

卷六 康安貞治應安永和康曆以上五度年号

勘文

卷七 加賀入道五旬願文 左馬助入道任宗

五旬願文 頓阿法師五旬願文 音阿

為先考一周追善文 兼豐入道五旬願

文 三江新左衛門入道父母追善願文

羽淵法印宗信三回願文 兼豐入道十

三回願文

卷八 後光嚴院御周忌文 王父卅三回文

隨心院僧正通嚴十三回文 泉涌寺前

住大突十三回文 左幕下御母儀文

大炊御門大納言母儀卅三回文 勤修

古書  
在會

古書  
卷九  
佐々木崇永  
三回文

寺二品親王五旬文  
佐々木崇永七回

文 筑前守景茂五旬文  
随心院僧正

昭嚴一回文  
兼熙朝臣父百箇日文

同人百箇日文  
勸修寺二品親王一周

文 葉室前大納言十三回文  
土岐大

膳大夫入道室家文  
本願寺前住三回

文 随心院僧正昭嚴三回文  
万里小

路一位母儀十三回文  
山徒東林坊室

家世五日文  
大炊御門内府冬信公世

三回文  
佐々木崇永十三回文  
兼豊

宿禰七回文

卷九  
佐々木崇永三回文  
山名時氏入道道

静七回追賁文  
土岐伊与入道五旬文

同廷尉禪門十三回願文  
二通

卷十  
日野一品忠光卿五旬文  
同百々日願

文 同七回願文  
柳原

故一品十三回文

卷十一  
大炊御門内府公氏室一回文  
御子

左大納言一周忌文  
二條前黄門為重

御五旬願文  
日野故大納言資明卿世

古書  
卷十  
日野故大納言  
資明卿世

三回文 二條為重卿三回文 同七回

文

卷十二 一條大納言實材卿一回文 足利義

滿公五回願文四十六通

卷十三 同時義持公以下願文四通 同御一

回十種供養願文等十一通

奧書

此迎陽記秀長卿以自筆之卷令模寫加一校畢

寬永七曆仲秋中旬

翰林學士菅原朝臣判

一 三教指揮勘注 三冊

閑觀房玄證抄

此抄は弘法大師之著書三教指揮之注也抄者閑

觀房玄證は高野山月上院之住侶にして其比有

名乃る画者也兼文此画を柘尾高山寺之什物に

見ゆ然も其傳を知らず其後得了處左之如し灌

頂日記曰承安二年十二月八日大阿闍梨密嚴院

院主兼大傳法院學頭大乗坊證印受者閑觀房玄

證成廿七生年年又御産御所記に曰建久四年十二月

廿一日宜秋門院御祈産中宮御元久二年十二月十

古書  
書  
保  
子  
會

八日傳燈大法師位玄證不空羅索供等觀修寺古  
血脈に曰大師廿代寛信法務付法新別所阿闍梨  
尊海号地藏房大納言俊付法阿闍梨範果之弟子  
玄證高野西谷院主元久元年六月八日入滅年七  
十二とあり柳菴雜筆に覺鏞上人之附法大乘房  
阿闍梨玄證と記せしは覺鏞之付法大乘房證印  
之弟子閑觀房玄證とすべきを師弟を一人と為  
せし誤り也血脈を以て今証とす  
奥書  
建久二年七月一日注之了大旨依敦光注以或

仁之說少分記之是併為後代朦也更不思他見  
努々  
德治三年二月廿六日於證下終筆切了  
權律師淨隆  
文安二年五月十九日於東寺宝菩提院書写之  
炎氣過例年淋汗如流川戲晨松之風翫暮竹之  
月閑暇之餘學春秋地而已  
筆者 愚蒙豪存  
一 七祖影贊 写 七幅  
弘法大師御贊



果快僧正手記に曰七祖影像此中龍猛龍智之二  
幅は大師之御筆自余之五幅は唐畫工李真之筆  
梵漢名號は七祖共御贊を併せて是又大師之真  
蹟也云々此手記は貞享二年九月六日之取調書  
にして此頃既に其字数を擧ぐ龍猛は梵号二字  
梵字五字贊字五十七龍智は梵号二字梵字三字  
贊字百三十金剛智梵号二字梵字五字贊字磨滅  
不空金剛梵号二字梵字五字贊字二百十八善無  
畏梵号二字梵字四字贊字百三十二一行贊字四  
百九十五惠果贊字八十七也今を去る凡二百年

古書  
書  
傳  
在  
會

斗りたるに此貞享之贊字も既に字数大に減し  
且磨滅するを以て讀むに不堪嗚呼惜ひ哉  
一 大元宗勳文 写 一冊  
沙門寂明撰  
此書は延久二年十一月十七日傳燈大法師位寂  
明此法を修行せんと請ふ處之勳文なり  
一 和漢朗詠集私注 写 三冊  
此注書漢字序に曰小野參議篁作と記す兼文按  
一條天皇御世四條大納言公任御之撰まれし朗  
詠集に百四十余年以前仁壽二年に卒去ありし

古書  
書  
傳  
在  
會

篁卿之新注を加へらるゝ理あらむや論に堪へ  
ざる書なれと此注書は古書にして其作者之小  
傳を擧げ其詩文之大意を分明に注し和歌は除  
けり注者人の信を厚せんと篁之名を假りし  
や道風朝臣之筆朗詠集之譬へは世に云傳へた  
れと篁之作とあるも又不審也題書には和漢朗  
詠集聞書抄と記す又奥書は九州肥後釋迦院住  
僧大智房秀繁書之とありて紙質書軀を以て考  
ふれば元弘建武年間のものゝ覺ゆ

一 絶海和尚四會語録

写

一冊

此語録之編者は絶海和尚之弟子西胤和尚なり  
絶海師は夢想國師十大弟子之内なり和漢に名  
高き僧にて應永三十年に妙祚か作る年譜卷末  
に載たり明之永樂之初め天龍寺之密堅中貢使  
役を勤め入朝之時絶海之弟子等聞同行し天童  
山之道聯和尚之許に來り此録の序文を求めた  
り其序に不意大法垂秋之日階正音寂寥之餘海  
有此偉人とは書たり

一 島隠集

写

三冊

桂庵玄樹和尚編

古書探存會

弘治九年辰七月明人友梅之序慶長第四臘月十

三日弟子正興吉隆之後叙

桂庵は始め洛東南禪寺に住し後年鹿兒島に轉

寸此詩集明之成化弘治年間渡海之詩多く又一

年肥後國菊池に在し時之佳作も不少

己酉元旦 延徳元年

耳順加三老杜多 吟節貪暖少陽坡

天開元日昇平瑞 人亦喜晴鶯亦歌

一 鷗巢集

写

一冊

相國寺内玉龍院阮南江和尚之詩集也此僧在泉

(第壹號)

堺日源庵文明年間之人也此集之卷端

春雲出谷

曾道出山泉水濁 今知在谷白雲高

請君長傍薜蘿住 若作春霖無乃勞

一 鷄助集

写

一冊

東山建仁寺内清住院古桂和尚之集也

益軸

玉立諸峯雪不乾 何人船上一簑寒

釣詩正好醒風景 若是俗漢林把竿

一 賦光源氏物語詩

写

一冊

卷首に賦光源氏物語序あり于時鳳曆正應之四  
載雁序清涼之八月云爾何人之作詩歟詳ならず  
自桐壺至夢浮橋五十四帖を題詠す各七言律詩  
也次に

賦物語作者紫式部

智女越州修吏女椒園勞績更無仇淺香山井藻  
詞勝武藏野原草名巖蔡琰文章無混俗惠班書  
紀争稱凡彼皆漢室此和國筆海艤舟共舉帆  
或説日依作源氏物語若紫卷号紫式部云々彼卷  
歌中有淺香山井之篇以采女詠為本歌且如古今

(第壹説)

并新古今序者彼宋女一首者為和歌之大躰之由

所見也式部依酌山井之流專深邦國之風豈不感

乎故有此興此一冊金沢文庫

一 鐵山和尚百首詩 寫 一冊

后版鐵山和尚集

永祿八年鞠月廿一日策彦序云后版壯歲僑寓于

西都華園之日造詣北野神祠者一百日且日課一

首以献焉云々然而まゝ二首あり一百題総て百

五十六首盡く七言絶句也其第一百燒香祭詩神

曾聽斯神渡海雲 至今默禱對炉熏

吟囊四百州風月

今分我南無北野君

一 扶桑鐘銘集

三冊

岡崎廬門信好輯

安永七年秋七月自叙并龍公美之次序

此集は原本水戸藩佐々宗淳及僧師點其後井上

玄桐等之所録也然而自貞觀頃至安永數百銘此

内安永七年十月に及び上木すゝ處漸々畿内而

已

卷一 山城國之部四十四ヶ寺

卷二 同 四十一ヶ寺

卷三 大和四ヶ寺河内二ヶ寺和泉二ヶ寺攝

津廿七ヶ寺以上百三ヶ寺之鐘銘也

一 三籟集

一冊

隆琦隱元禪師集

此編は黄檗山万福禪寺之用基隱元和尚之作詩

中柏堂山居詩中峯四居詩石室山居詩之三居詩

を集めたりもの也禪師之詩は此余に多くあり

一 法苑略集

五冊

性暎高泉和尚集

高泉和尚は黄檗山茅五世之高徳也其集全三

十卷之中より此略集は撰み採る處にて法苑は  
黄檗にあつ寺院之名高泉開基之院なり此僧は  
支那福州之人にて隱元之弟子慧門か付法黄檗  
にては無双之文字禪なり

一 藏林集

六冊

南源性洑和尚集

黄檗派第六世之高徳能書を以て此僧は人に知  
らる其徒道曜道周之編録する處也

一 大梅一絲語録

五冊

文守一絲和尚集

此一絲和尚は江州永源寺及下賀茂無源寺之中

興丹州法常寺之開基にて烏丸光廣卿之參師近

代之名僧也詩文共に近世叢林にも珍敷作者僧

儀も殊に拔群之聞へ高し編者は一絲之徒弟光

頓也

一 山堂清話

三冊

性暎高泉和尚集

此編は寛文年間高泉和尚之作禪佛語録之外詩

話雜説を輯めたる書也

一 庸軒詩集

二冊

庸軒藤村當直微翁集

享和亥六月藤浪季忠御序蘭方源直察之小引其

大意に云

庸軒學術遊于三宅山崎之二門諷詠壓李翰林杜

拾遺之才矣茶事受于千家全式而篤熟之後為一

派紹後世元禄十一年九月十七日卒八十七歳年紀

大成誤に八十八没後百年松永昌民興荻野道興謀

り上梓す後叙は道興也享和三年四月刻成

一 皇相吟

紫野覺印洛中洛外之神宮梵宇を題詠したる小

詩世二首を集めたり此諦は天林和尚之俗弟なり

一 木門十四家詩集

三冊

木門と云は木下氏貞幹順庵先生事平之允直夫

号錦里之稱にして其十四家とは門子中之高名

家にて則如左

室 直清 号滄浪又鳩巢稱新介加州ノ人

木下 順信 字敬簡号浄庵順庵長子

木下 寅亮 字汝劔号竹軒稱平三郎順庵次子

田 伯隣 号鶴樓

西山順恭 字健甫 對馬人 本阿比留氏

神原玄輔 字希詡 号篁洲 泉州人 紀州藩

南景衡 字南山 南部草壽 加州藩

橘伯陽 雨森 東五郎 洛人 對馬藩

松浦權 字禎 御稱權 四郎 對州藩

祇園昌 号白玉 又蓬萊 名貞稱 与一郎 紀藩

勝田彘 字養元 号雲鵬

石原御 鼎庵 名學魯 号梓山 西肥人

岡嶋達 字仲通 号石梁 称忠四郎

岡田信盛 称文藏 号竹園 紀州藩

以上十四家之詩文集

一 弊帚集

二 冊

潛鋒 栗山愿集

享保辛卯九月平安前田時棟序 僊潭藤咲 正方跋

此集之編次は 賦序記議辨說題跋書啓銘碑祭文

雜著也

一 白石遺文

二 冊

新井筑後守君美編

此編は 宋徽宗遺日本書跋 元祖遺日本書跋

題靖壹實錄 南島志總序 采覽異言序 題采



覽異言後 蝦夷志序 起請文考證 興土肥元

成書 論互市檀場 律呂說鞍馬寺所藏古甲記

鹽竈松島圖誌序 江関遺聞序 青山公奇石記

向日持上人事跡書 告瀬戸神文 詩詩草餘稿者

此錄于 聯句

一 白石餘稿 三冊

新井筑後守君美集

鄭任鑰并室直清之函序高玄岱之跋

此集は白石之男明卿撰之緒言あり白石詩草に

載るは録せり

一 白石詩草 一冊

新井筑後守君美集

朝鮮國通信正使趙泰億同製述官李礪及高玄岱

之三序同通信別使任守幹從事李邦彦之後叙

此集に載る處は紀使君園中八首 備前虫明八

景 追悼恭靖先生八首 其外七五絶律等七十

五首也

一 白石拾遺 二冊

新井筑後守君美集

此編に録する處は 田制考序 貨幣考序 車

輿考序	冠服考序	樂舞考序	職官考序	尺
牘筌序	采覽異言輿地總序	集古圖序	停雲	
集序	方策合編序	東音譜序	高子觀游記序	
孫武兵法懌序	新井家系序	排佛論	樂山亭	
記	記義奴平山事	奉答本鄉先生問目	荅友	
人題七賢五	白雉帖題辭	附鞞記後	跋那須	
國造碑	題親書大般若波羅密多經六百卷募緣			
疏	文昭廟室鐘銘	多賀城古瓦硯銘	偶記	
詩	<small>詩所漏錄于稿此</small>			
一	韞藏錄			一冊

剛齋佐藤直方輯

佐藤氏稱五左衛門山崎闇齋之高弟也編中垂加之說多く記載す如譏赤穂義士者又是一僻也論弁四序八跋八雜著十二雜著中楠正成墓石説は脱漏せり

一 拙齋詩集 二冊

岡部拙齋集

拙齋名は玄又洛陽之人菅德庵之門子にて播州網干村之也初め松平丹後守重直君に仕へ後水戸源黃門光圀卿に仕へ其後又讃州高松松平頼

古書録存會

重朝臣に仕へたり

一 林塘集

二冊

人見卜幽軒集

水戸藩卜幽軒之詩文集也其子人見又左衛門編

集寸序傳之作者は人見友元也友元は卜幽之姪

男たり

一 槐庵遺稿

一冊

槐庵堀正乙集

洛陽之人堀正乙之詩集なり梅園立意編む正乙

は立庵正意之孫なり才華ありて早世せり

一 徂徠集

三十卷 十冊

荻生物茂卿集

元文改元珙蘭滕忠統序烏石山人書之

此集自卷第一至第七詩自八至十九序銘論紀事

之類自廿至三十書牘を載たり

一 南郭文集

十卷 五冊

服部元喬南郭集

享保六年七月八日荻生物茂卿滕忠統平野金華

等之三序

服元喬名は子遷称小右衛門徂徠之門人中第一

詩文之達者なり書以又能世り

一 江陵集

四冊

葛庵原資禪師集

寛保元年十月服部南郭荻生徂徠之西序卷末に

は烏石葛辰之附書并南郭見江陵集歌一篇を載

寸烏石山人之書也延享二年九月上梓

一 獨醒庵集

五卷 三冊

白山平賀子英集

寛政未仲秋皆川愿賀美通之二序中村健跋

平賀氏蕉齋と号寸藝州之文學也此集卷一五言

(第壹號)

七言古詩廿三首卷二五言七言律詩排律百卅六

首卷三七言律詩百七十三首卷四七言律詩六十

三首五言絶句四十首卷五七言絶句百七十四首

総斗六百九首也寛政十三年正月刻成

一 淇園文集

三冊

淇園皆川愿伯恭集

寛政四年仲春滄洲赤松鴻鶴橋柚木太淳二序

此集卷一序十八篇卷二紀事二記四贊九歳二銘

四 墓碣八祭文二紀行二卷三說四傳一對問一跋

三 書三啓四牘十六雜文三條寛政十六年仲冬上

古書保存會

梓

一 限時百詠

二冊

此集は源一公百輯寛政乙卯十月自序一名三先生一夜詠と云儋叟清田君錦淇園皆川伯恭北邊富士谷仲達宝曆十一年八月廿五日午之時より子之時迄に出百題賦五律七し也就中富士谷成章は各副和歌此事伴蒿溪之奇人傳にも載られたり今此書は和歌一首を附録になしぬ君錦四句落題あり成章和文之奥書寸長門處士内田龍子潛之後叙を添ふ寛政九年二月上木

(第壹號)

一 碑銘集

写

一冊

此集に録す處は

元升向井以順碑銘并序

玳州後學員原篤信撰

蒙庵武田信勝碑銘并序

六々山人石川重之撰

巖島神廟記

六五聖鄒國孫慈庵武林氏撰

三條右大臣定方公碑後序

東涯伊藤長胤拜撰

可所北村篤所墓碑銘同

古書保存會

蟠龍植田景雄碑

大納言藤文貞公墓碑銘

大神景貫謹撰

龍草廬夫妻碑陰

白肅中村一鷗墓碑銘

梅小路宰相定福卿書

貞謙合田温墓碑銘  
淇園皆川伯恭撰

神祖營跡之碑  
大久保安藝守忠真題額  
何部主計頭正精書丹

牧羊三宅元獻碑銘并序

弟昌意撰

後心空華院輔平公墓誌銘

阿波儒員藤原憲撰  
書傳士治部大輔賀茂保考書

猪飼敬所彦傳妻墓碑銘

安藝秦台撰

建仁工匠家傳記同

翫鷗太田伯魏墓碑銘

從二位清原宣光撰

崆峒古和子真墓碑銘并序

出雲桃世明撰  
安藝秦台書

石亭木内小繁墓碑銘并序

阿波儒員藤原憲撰

一 修靜庵遺稿

二冊

蒲生君藏秀實集

此書同名異本在之編中又不同其一本に掣了處

上國老書 与石橋鈴木先生書 呈萩原中書書

上大學頭林君書 与會津存上人書 九志序

神祇志 姓族志 山陵志 服章志 兵志 講

學約束 團子森傳 靈蛇冢碑 那須國造碑考

修靜庵大人墓碑銘

今一本は水藩茅根粍緑之編了處遺稿之餘に

(第壹號)

した漸々詩五十七首に和歌七首を附録す嘉永

己酉之秋山緑茅根成之後叙あり

一 感舊篇

一冊

珮弦齋青山延年輯

卷端青山延年光之序

此書に載了處水戸藩主從六士之墓碑也

水戸烈公碑 藤田東湖墓碑 伯民會沢正安

墓表 豊田天功墓銘 拙齋青山延子墓表

蓬軒戸田忠敬墓碑以上

一 後光明天皇御製集

写

一冊

後光明天皇宸作

此御集八慶安承應年間，御製，詩文百余首

ヲ集ハ書中ニ慶安四年九月十二日惺窩文集

ノ御製序ヲ載ス

曉行

千山如夢過 萬水滌懷行 林際曉風冷

雲間殘月清

一日本詩鈔

七冊

源世昭君哲編輯

寬政壬子冬源勤士慎甫序同年九月撰者自跋

(第壹說)

卷一 五言古詩 八首 卷二 七言古詩

十七首 卷三 五言律詩 七十一首 卷四

五言排律 十三首 卷五 七言律詩 八十七首

卷六 五言絕句 五十五首 卷七 七言絕句

九十六首 合三百四十七首也

人員は物茂卿服元喬石川大山新井白石木下順

庵太宰純室直清伊藤維楨同長胤祇南海釋元政

那波方釋法霖入江兼通柚木太玄梁田邦美江村

綾島山輔寬龍公美平玄中皆川愿赤松鴻山形考

孺嚴垣彦明以下數十名



一 白鷗莊詩鈔

三冊

田中芥坡著

文久壬戌二月中村栗園澁谷啓西序菅孝附言

水雲集 八十八首 櫛芳集 七十八首

風輦集 七十三首 維新集 六十四首

震餘集 八十首 間居集 一百三首

試節集 六十四首 以上古今體共

通計 五百五十首

足利道慶東山茗醖圖

萬瑋蹂躪帝王州 車載纍々血髓髓

(第壹號)

不識碧雲銀鼎際 清風兩腋杲生不

慶應丁卯秋七月自跋

羊世之戰記



